

知っていると知らないでは大違い 実践！ 踵部痛の診断と治療

神崎至幸

Noriyuki KANZAKI

神戸大学医学部整形外科

皆様は踵部痛と聞いて、どんな疾患を思い浮かべになるだろうか。足底腱膜炎、疲労骨折あたりは出てきても、続く疾患はあまりないのではないと思われる。その原因としては、足の外科が整形外科の中でもマイナー領域であるために、踵部痛を引き起こすさまざまな疾患が認知されていないことが大きいのではないかと考える。そこで今回の特集では足の外科のエキスパートの先生方に、さまざまな踵部痛の原因疾患の診断と治療についてまとめていただいた。

まず足底痛の代表である足底腱膜症に関しては百武整形外科・スポーツクリニックの田中博史先生にお任せした。最も後方のアキレス腱付着部については済生会奈良病院の松井智裕先生に、意外と見逃しがちな踵骨疲労骨折に関してはJCHO 久留米総合病院の野口幸志先生にお願いした。早稲田大学大学院スポーツ科学研究科の永元英明先生にはメジャーな三角骨障害以外のあまり知られていない後方インピンジメント症候群についておまとめいただいた。腓骨筋腱に関連した疼痛に関してはその道の第一人者である三重大学の西村明展先生にご執筆いただき、脛骨神経の枝である外側足底神経第1枝の別名であるバクスター神経の障害に関しては聖路加国際病院の天羽健太郎先生に解説していただいた。近年その病態が明らかになりつつある Heel fat pad syndrome については早稲田大学スポーツ科学学術院の前道俊宏先生に、Accessory anterolateral talar facet impingement syndrome については流杉病院の秋山 唯先生にご紹介いただいた。小児の踵部痛の代表である2疾患、距踵間癒合症については岡田整形外科の岡田洋和先生に、シーバー病に関しては獨協医科大学埼玉医療センターの垣花昌隆先生に詳述していただいた。

かなりマイナーな疾患・病態のものもあるが、「知っている」と「知らない」とでは診察時に大きな違いが生じることは周知の通りである。本特集を読んで、難解な踵部痛を診断・治療できる方が1人でも増えることを切望する次第である。